

令和元年度 歯学部卒業生臨床研修先へのアンケート調査結果について

1. 背景

岩手医科大学では、本学における教育の質保証を目的として、平成 30 年に「学習成果の評価検証方針及び指標」を定め、これによって 3 つのポリシーに基づいた教育が実施されているかを検証することとしている。

令和元年 9 月 10 日に開催された教学運営会議にて、教育成果の可視化、活用および情報の公開について一層の充実を図ることが承認され、指標の一つである卒業時・卒業後アンケート結果を実施・公開することとなった。ここでは、その内卒業生が臨床研修医・臨床研修歯科医・薬剤師として従事している医療機関等に対して行ったアンケート結果について報告する。

2. 概要

調査対象 平成 29 年度、平成 30 年度卒業生が臨床研修歯科医として従事している医療機関等
(調査対象数：8)

調査期間 令和元年 9 月 13 日（金）～9 月 30 日（月）

実施方法 インターネットを利用した Web アンケート

質問内容 ①学部ごとの学位授与方針（DP）に対する本学卒業生の実態について
②本学の教育に求める内容について

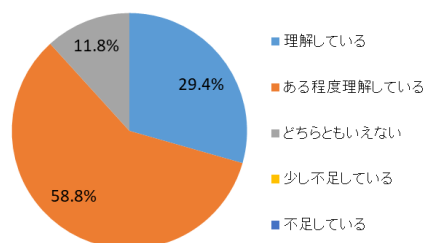
3. 結果

回答数 17（1 医療機関から複数回答あり）

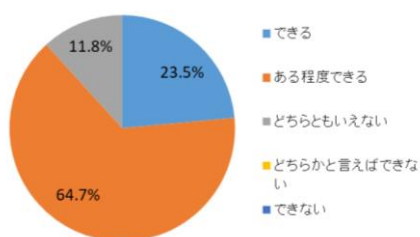
協力機関 岩手医科大学附属病院歯科医療センター（匿名機関を除く）

Q 1. 岩手医科大学歯学部では、以下の 9 の資質を身につけた者に学位を授与する方針を掲げております。貴医療機関で研修した本学卒業生がそれぞれの資質をどの程度身につけていたか評価をお知らせください。

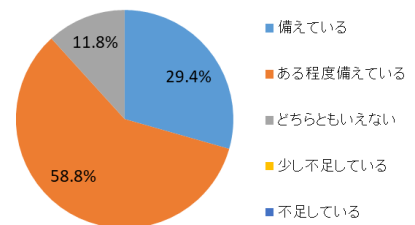
①歯科医師として患者や地域住民の健康と生命を守るという責務を理解している。



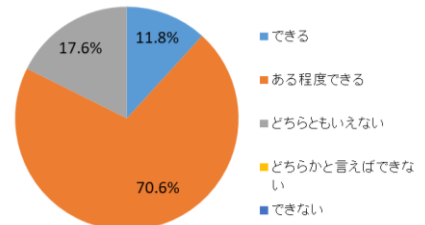
②「生命の尊厳」、「守秘義務」、「患者の権利」に配慮して患者中心の歯科医療を実践できる。



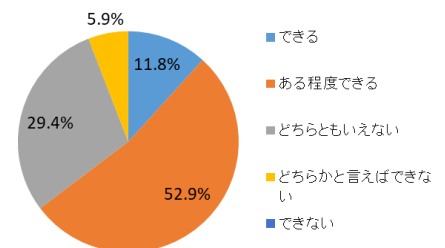
③患者やその家族に歯科医療の内容をわかりやすく伝え、さらには、彼らの気持ちに配慮しながら良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を備えている。



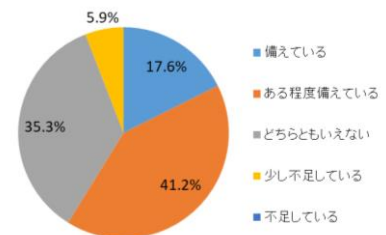
④医療チームの一員として、相手の立場を尊重しお互いの協力のもとに医療を円滑に実践できる。



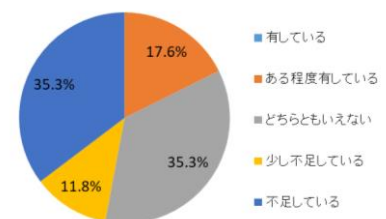
⑤科学的な根拠のもとに統合された知識、技能、態度を有し、全身的、心理的、社会的状況に対応可能な総合的な診療を実践できる。



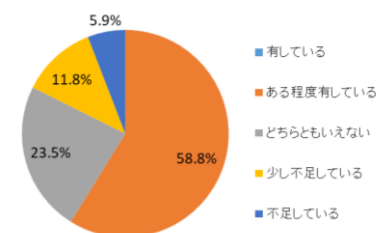
⑥地域の保健、医療、福祉、介護の現状や問題点を把握して、地域医療の向上に取り組む態度が備わっている。



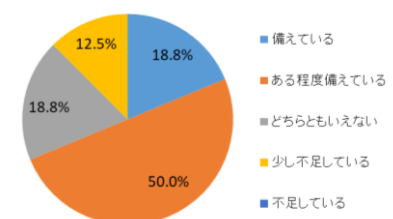
⑦国際的な医療活動に参加するための基本的な語学能力を有している。



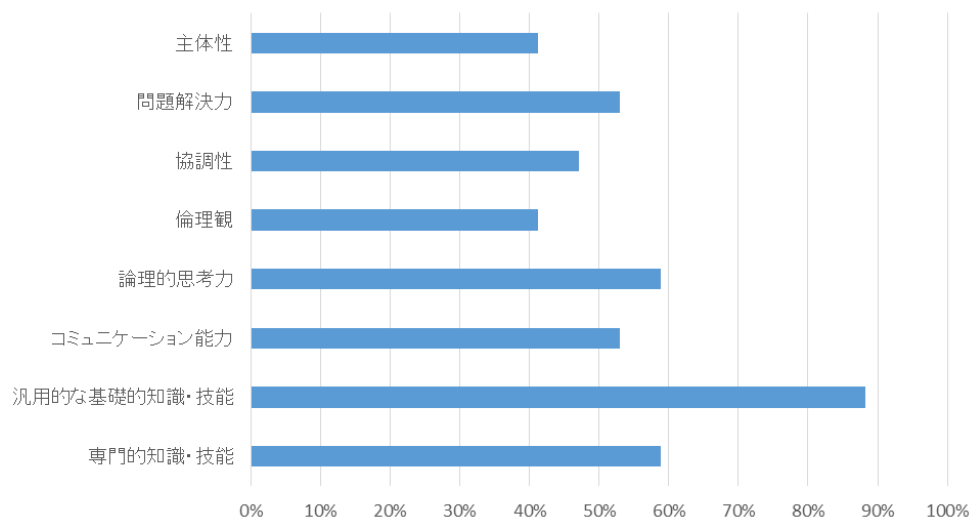
⑧歯科医学や医療の発展に寄与する研究を遂行するために必要な知識と技能を有している。



⑨生涯にわたり歯科医療に対する自己研鑽を続ける態度が備わっている。



Q2. 本学の教育に求めるものについてお伺いします。



Q3. その他、ご意見等ございましたらご自由に記載してください。

・特になし

4. 総評

学位授与方針で定めた資質に対して、「歯科医師としての責務の理解」「患者に配慮した患者中心の歯科医療の実践」「患者とのコミュニケーション」「他者との協力」といった態度・技術に対する達成度が高い傾向がある。一方で、「科学的根拠に基づく総合的な診療の実践」「地域医療に対する姿勢」「研究に必要な知識・技能」「自己研鑽を続ける態度」などは、達成度が低かった。特に「英語力」においては30%以上が「不足している」と回答していた。

本学学生に求めるものとして最も高い割合を示したのは「汎用的な基礎的知識・技能」で、80%以上にのぼった。次いで「専門的知識・技能」「論理的思考力」が60%近い値となった。一方で、他学部で70%以上の医療機関が求めている「コミュニケーション能力」については、50%程度にとどまっていた。

Q1の資質に関するアンケート結果も踏まえると、歯科医師として仕事に臨む意識や姿勢、患者とのコミュニケーションといった能力を身に付けている卒業生が多い一方で、専門的な知識・技術や論理的思考力など治療の実践に必要な能力を教育することの重要性が示される結果となった。また、「英語力」については学位授与方針に示されている国際的な医療活動に参加できるレベルの担保が難しいことが示されたことから、これらへの対応は必要と考えられる。